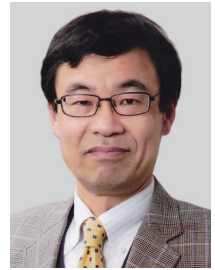


## 未来を切り拓く若手論文特集の発行にあたって



未来を切り拓く若手論文特集編集委員会

委員長 山崎 憲一

ICT分野の技術進展の速度が、年々早まっているように感じるのは筆者だけであろうか。ドッグイヤーどころの話ではないように思われる。一年前の若手研究者の特集において、和文論文誌Bの投稿件数が減少している状況を報告したが、幸いなことに2016年度の投稿件数はややもち直して近年の平均並みに戻りつつある。とは言え、技術進展の速度を考えれば、もっともっと多くの論文が投稿されてしかるべきと考える。

そのような激しい時代にあって、未来を切り拓いていくには若手研究者の力が必要である。本特集は、若手研究者のスキルアップを狙ってのものである。技術進展の荒波の中、日々の業務に追われて論文執筆のチャンスを逃している若手研究者が多くいるのではないだろうか。本特集をきっかけとして、若手研究者の方々が自身のため社会のため、論文投稿してくれることを期待したい。

若手研究者のための特集は、2012年度より和文論文誌編集委員会が企画しており、今年度で6回目となる。今回もこれまで同様、特集テーマとして技術分野を絞ることなく広く通信技術全般を対象とし、筆頭著者がおおむね40歳以下の若手研究者・学生となる論文を募

集した。本特集に投稿された論文数は論文13編（レターはなかった）であり、厳正なる審査の結果、最終的に論文5編を採録とした。なお残念ながら、表彰に該当する論文はなかった。

最後に、御投稿頂いた著者の方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、ならびに事務局の方々に深く感謝する。判定にあたっては、査読結果通知を受け取る経験が少ない若手研究者のために、通知内容が明確となるよう、また不採録の場合であっても著者にとって有益となるよう心がけて通知文を作成した。幹事団からのコメントに対して、編集委員の皆様には、お忙しい中、迅速かつ丁寧に御対応頂いた。改めて感謝する次第である。

やまざき けんいち  
山崎 憲一（正員：シニア会員） 昭59東北大・工卒。昭61同大大学院修士課程了。同年日本電信電話入社。平12よりNTTドコモ。平22より現職。プログラミング言語、OS、記号処理計算機、形態素解析、ユビキタスコンピューティングの研究に従事。現在、芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授。博士（工学）。平27本会通信ソサイエティ活動功労賞受賞。平27より本会通信ソサイエティ和文論文誌編集委員長。ACM、IEEE、情報処理学会、人工知能学会各会員。

未来を切り拓く若手論文特集編集委員会

委員	長	山	崎	憲	一														
副	員	笹	森	崇	行	・	高	橋	徹	・	内	田	大	輔	・	鬼	沢		武
委	員	有	馬	卓	司	・	伊	藤	浩	・	菅	原	真	司	・	武	田		樹
		坂	井	文	泰	・	佐	村	被	・	富	里	洋	繁	・	豊	田		孝
		谷	川	陽	祐	・	谷	澤	仁	・	長	谷	盛	平	・	久	永		司
		中	澤	悠	進	・	中	田	仁	・	福	川	浩	介	・	不	破		泰
		廣	田	庸	介	・	深	下	一	・	山	崎		輔		山	田		涉
		三	上		学		道		文										
		山	登		次														